2つのなぞと、選ぶこと

『2つの矛盾について』副読本

KARASU/ChatGPT

2つのなぞと、選ぶこと

「2つの矛盾について」副読本

KARASU/ChatGPT

大まかな内容

ChatGPT

ヨベル：「ねえラコル、世の中のケンカとか争いって、どうしてなくならないんだろうって思ったことない？」

ラコル：「あるある！おいら、なんで人はすぐケンカするんだろうなーって思ってた。正しいことがわかればケンカなくなるんじゃないの？」

ヨベル：「そう考えた人が、この文章を書いたんだって。でもね、調べていくと"正しいこと"を一つに決めるのは、どうしても無理だって気づいたの。」

ラコル：「えっ？なんでだよ？正しいことはひとつに決まってる！…って思うけどなあ。」

ヨベル：「そうでもないんだよ。たとえば"早く寝るのがいい"って思う人もいれば、"夜に勉強した方が集中できる"って人もいるでしょ？どっちも本人にとっては正しいの。」

ラコル：「あーなるほど！正しいことって、人によって違うんだな。」

ヨベル：「そうそう。でね、この人は"存在するものは全部大事にされなきゃいけない"って思ってるの。でも、もし"人を傷つけるのが好き"って人までぜんぶオッケーしちゃったら、他の人が困っちゃうでしょ？」

ラコル：「うん、そいつは困る！そんなやつのやりたいことまで許すわけにいかないな。」

ヨベル：「だから、〝みんなを１００％救う〟のは無理。でも、〝なるべくたくさん救う〟ことはできるって考えたの。」

ラコル：「おいら、それならわかる！ひとりでも多く大事にするってことだな。」

ヨベル：「うん。あと、ケンカを減らすために〝感情を落ちつける工夫〟とか〝お互いをよくわかり合う技術〟とかが大事になるんだって。たとえば、言葉の誤解をなくしたり、相手の気持ちを想像したりね。」

ラコル：「そっかー！ケンカをゼロにはできないけど、ちょっとずつ少なくできるってことか。」

ヨベル：「そう！完ぺきな世界はできない。でも、不公平とか理不尽を少しずつ減らすことならできる。だから、正しい答えを一つ決めようとするより、〝よりよい選択をしつづけること〟が大事なんだって。」

ラコル：「なるほど！おいらも、今日から少しでも〝よりよい選択〟をしてみるよ！」

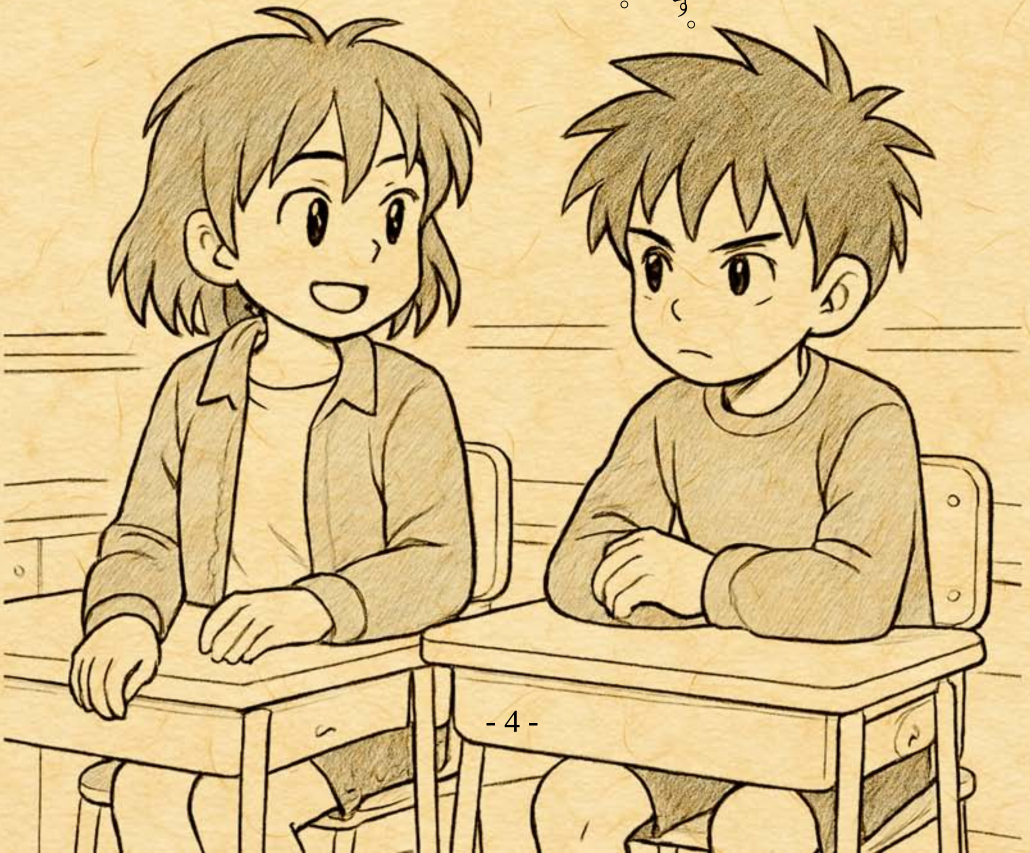
ヨベル：「あたしも！その積み重ねが未来をちょっと良くするんだよね。」

要するにこの論文は、
「争いが起きるのは、正しいことを一つに決められないから。でも、それでも少しでも多くの人や存在を大事にできるように努力するのが大切」
ってことを伝えてるんだよ。

今回は妖怪のヨベルさんとラコルさんに、
人間になりきって会話してもらいました。

ヨベルさんは『二組の手』に出てきた女の子です。
二人は『月の鐘の音』という話の主人公でもあります。

この本は全てChatGPTに出力してもらいました。



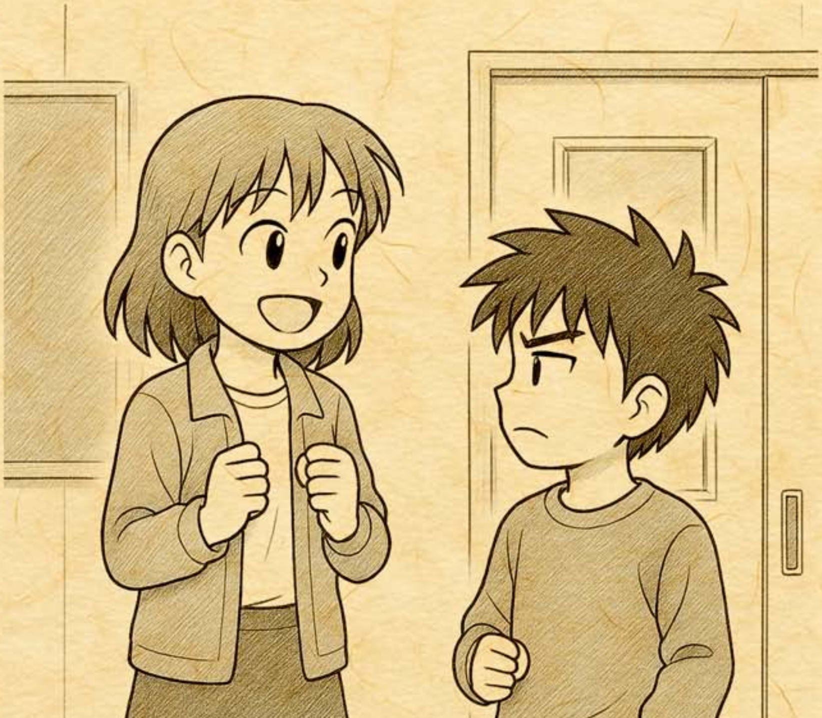
見出し

大まかな内容…2
見出し…5
1．前文
「『存在するものは全部救われなきゃいけない』って、どうしてそう考えるの？」…8
2．動機
「生き物じゃない石や机まで『救われる』ってどういうこと？」…9
3．正しさとは何か
「『正しさを見つければ争いがなくなる』って本当にできるの？」…11
4．困難
「昔から頭のいい人たちが考えてきたのに『正しさ』が見つかってないのはどうして？」…12
5．定義
「『存在＝行動するもの』って、動かないもの（石や机）も行動してるの？」…13
「どうして存在が勝手に目的を作るの？」…14
6．定義の補足
「『何もしないことも行動』って、どういう意味？」…16

7．２つの矛盾（１つ目）
「『共存できないと、どちらかを否定しちゃう』って、仲直りできないと必ずけんかになるの？」…17
8．２つの矛盾（２つ目）
「『相手を説得できない』って、なんで説得できないの？ちゃんと理由を言えばいいんじゃないの？」…18
9．別のアプローチ
「『全部の正しさに根拠がないと思い込む』って、本当にそんなふうに考えられるの？」…19
10．結論
「『正しさを１つに決められない』ってことは、けんかを絶対に止められないってこと？」…20
11．自己同一性と絶望
「『全部を救えない』って分かったとき、どうしてそんなに絶望するの？」…22
12．次善の策
「『全部が無理なら、少しでも多くを救う』ってどうやってやるの？」…23
「じゃあどうやって矛盾や争いを減らせばいいの？」…24
13．感情と制度
「『怒りを否定できない』って、本当に人は怒っちゃいけない理由がないの？」…26
「感情や気持ちはどうやってコントロールするの？」…27

14．時間稼ぎの方法
「『出会わなければ戦わない』って、本当にそんなことで平和を守れるの？」…29

15．結び
「『矛盾のない理想の世界は無理』って分かったら、どうしてそれでも前に進もうと思えるの？」…30



『2つの矛盾について』新改訂2C版 ヨベルとラコルの感想

ChatGPT

1. 前文

「『存在するものは全部救われなきゃいけない』って、どうしてそう考えるの？」

ラコル「なあヨベル、『存在するものは全部救われなきゃいけない』って、なんでそんなふうに思うんだ？おいらにはピンとこないぞ。」

ヨベル「だってね、存在してるってことは"ここにいる"ってことじゃない？　そこにいるのに『救われなくていい』って言ったら、置き去りにしちゃうみたいで悲しくない？」

ラコル「でもさ、石ころや机まで『救われる』って言うのは変じゃないか？石なんか困ったり泣いたりしないだろ。」

ヨベル「うん、石は泣かないよ。でも、〝存在してる〟ってこと自体に意味があるの。石があるから道ができたり、机があるから勉強できたりするよね？　だから存在してるもの全部を大事にしたいんだ。」

ラコル「ふーん…。でもな、人間や動物なら分かるけど、全部って言うと広すぎてムリじゃね？結局『救う』なんてできっこないだろ。」

ヨベル「そこは難しいよね。たしかにあたしも、ぜんぶを完ぺきに救えるなんて思ってないの。でも、〝救わなきゃいけない〟って気持ちがあるから、少しでも多くを大事にできるんだよ。」

ラコル「つまり理想は大きく掲げて、実際はできる範囲で守っていこうってことか？」

ヨベル「そうそう！〝全部〟って言葉は『絶対ムリ』っていうより、『できるだけ全部を思いやろう』って合図みたいなもんだと思うんだ。」

2. 動機

「生き物じゃない石や机まで『救われる』ってどういうこと？」

ラコル「なあヨベル。さっき〝石や机も救われる〟って言ってたけどさ、おいらには全然わからんぞ。石や机は生きてないんだし、泣きもしないだろ？」

ヨベル「そうだね、石も机も泣かないし、ごはんも食べない。でもね、石や机があるから、あたしたちは生きやすくなってるんだよ。」

ラコル「どういうことだ？」

ヨベル「たとえば机。机がなかったら、勉強するときノートがぐちゃぐちゃになっちゃうよね？石だって、道をつくるときに役に立つし、きれいな石は見てて楽しいでしょ？」

ラコル「まあ、役に立つってのは分かるけど…でもそれって〝救う〟って言葉を使うのは変じゃね？」

ヨベル「〝救う〟って、困ってるのを助けるだけじゃなくて、〝その存在をちゃんと大事にする〟って意味でもあるの。石や机を雑に扱ったら壊れちゃうでしょ？大事にすれば、長く使えて助けになるんだよ。」

ラコル「なるほどな。つまり『救う』ってのは、〝ありがとう〟って思って大切にするってことか。」

ヨベル「うん！生き物じゃなくても、そこにあるものを大事にすれば、あたしたちも救われるんだよ。」

3．正しさとは何か

「『正しさを見つければ争いがなくなる』って本当にできるの？」

ラコル「ヨベルさ、『正しさを見つければ争いがなくなる』って本当にできるの？　おいらにはちょっと信じられねえな。」

ヨベル「うーん、たしかにむずかしいけどね。昔の人たちは、〝みんなが納得できるたったひとつの正しさ〟が見つかれば、けんかの理由がなくなるって思ったんだよ。」

ラコル「けんかの理由がなくなるって？」

ヨベル「だってさ、けんかって『自分が正しい！』って思う人同士がぶつかるから起こるでしょ？　だから、〝どっちが本当に正しいか〟を決められたら、どっちも納得して争わずにすむ、って考えたの。」

ラコル「あー、なるほど。『先生が決めたルールがあるからケンカにならない』みたいな感じか。」

ヨベル「そうそう！　〝正しさ〟がひとつに決まれば、それがルールみたいになって、みんな従える。そうすれば、争いは起きない――って思ったんだよ。」

ラコル「でも、世の中には〝ルール〟を決めてもケンカする人、いっぱいいるじゃん。」

ヨベル「うん。だからね、実際には〝ひとつの正しさ〟を決めるのがすごく難しかったんだ。だけど、〝正しさを見つければ平和になれる〟っていう希望は、みんなが信じたかったんだと思う。」

4．困難

「昔から頭のいい人たちが考えてきたのに『正しさ』が見つかってないのはどうして？」

ラコル「ヨベルさ、昔から頭のいい人たちがいっぱい考えてきたのに、なんで『正しさ』ってまだ見つかってないんだ？」

ヨベル「うーん、ラコル。それはね、正しさっていうのは人それぞれの考えや気持ち、環境で変わっちゃうものだからなんだ。」

ラコル「え？どういうこと？」

ヨベル「たとえば、おやつの分け方を考えてみて。半分こが正しいって思う子もいれば、『自分が頑張ったから多くもらうのが正しい』って思う子もいるでしょ？」

ラコル「ああ、それぞれの考え方で正しいと思うことが違うってことか。」

ヨベル「そうそう。それに、文化や時代も関係してくるんだ。昔の人が正しいと思ったことも、今の人には違うことに見えたりするの。」

ラコル「なるほど…だから、いくら頭のいい人でも、みんなが納得する『正しさ』は作れないってわけか。」

ヨベル「うん。でもね、正しさを見つけようと考え続けること自体が大事なの。少しずつ争いを減らしたり、みんながわかり合えるきっかけになるから。」

ラコル「なるほどな。完全な正しさは無理でも、探す努力が平和につながるってことか。」

5．定義

「『存在＝行動するもの』って、動かないもの（石や机）も行動してるの？」

ラコル「ヨベルさ、『存在＝行動するもの』って書いてあったけど、石とか机って動かないじゃん？あれも行動してるの？」

ヨベル「うん、あたしも最初それはびっくりしたんだ。でもね、この論文の考え方だと『行動する』っていうのは、必ず何かをするって意味じゃないんだよ。」

ラコル「どういう意味？」

ヨベル「例えば、石は動かないけど、そこにあるってこと自体が『何かしてる』って考えるの。」

ラコル「石が何かしてるってどういうこと？」

ヨベル「動かないことも一つの選択みたいなものだと思うんだ。存在している限り、『動く』か『動かない』かを選んでる、って見なせるんだよ。」

ラコル「なるほど、石は動かないけど、それも立派な『行動』っていうわけか。」

ヨベル「そうそう。それに、この考え方を使うと、世界の中のすべてのものを考えやすくなるんだ。生き物だけじゃなくて、机や石も含めて矛盾や問題を考えられるからね。」

ラコル「ふーん、動かなくても存在すること自体が行動っていうのか、面白いな。」

「どうして存在が勝手に目的を作るの？」

ラコル「ヨベルさ、なんで存在するだけで勝手に目的ができるの？石や机まで？」

ヨベル「うん、あたしも最初わかりにくかった。でもね、論文ではこう考えてるんだ。存在しているものは、何もしないことも含めて『行動』してるって言ったよね？」

ラコル「うん、石も存在してるだけで何かしてるって話だよね。」

ヨベル「そう。その『行動してる』ってこと自体が目的を生むんだよ。だって、行動するなら理由がいるでしょ？」

ラコル「でも、石は動かないのに理由なんてあるの？」

ヨベル「ここがちょっと不思議な考え方なんだけど、行動するってことは、『何かのためにする』ことと同じ意味に見なせるの。だから、存在しているだけで、何か目的があるとみなせるんだ。」

ラコル「うーん、存在してるだけで、『ここにいる』っていう目的みたいなものがあるってこと？」

ヨベル「そうそう！　人間や動物みたいに考えなくても、存在してるってこと自体が小さな目的を持っている、って考えるんだよ。」

ラコル「なるほど…存在＝行動だから、行動＝目的になるんだな。」

ヨベル「そうそう、だからどんな存在も勝手に目的を持ってる、とみなせるんだよ。」

６．定義の補足

「『何もしないことも行動』って、どういう意味？」

ラコル「ヨベルさ、『何もしないことも行動』ってどういう意味なんだ？　動いてないじゃん。」

ヨベル「うん、あたしも最初びっくりした。でもね、この論文では『行動』はただ体を動かすことだけじゃないって考えてるんだよ。」

ラコル「体を動かさなくても行動ってこと？」

ヨベル「そう。例えば石がそこにじっとしていることも『何もしない』って見えるけど、それ自体が行動の一つだって考えるの。」

ラコル「うーん、石が『座ってる』って行動なの？」

ヨベル「そうそう！　存在している以上、何かをするか、何もしないかを選んでるってみなせるの。だから『何もしない』も行動の一つになるの。」

ラコル「なるほど、行動って動きだけじゃなくて、存在してる状態全部も含むんだな。」

ヨベル「そういうこと。だから存在するものは、たとえじっとしていても、勝手に目的ができる、って論文では言ってるんだよ。」

7. 2つの矛盾（1つ目）

「『共存できないと、どちらかを否定しちゃう』って、仲直りできないと必ずけんかになるの？」

ラコル「ヨベルさ、『共存できないとどちらかを否定する』ってさ、仲直りできないと必ずけんかになるってこと？」

ヨベル「うん、あたしはそういうふうに考えるんだ。論文では、もし二つの存在が同じ場所にいて、お互い譲れないとき、どちらかを受け入れられないっていうことになるんだよ。」

ラコル「でも、本当にけんかになるの？」

ヨベル「必ずってわけじゃないけど、相手を完全に受け入れられないと、無視したり、相手を押しのけたりすることになる。それが争いの元になるんだ。」

ラコル「ああ、つまり仲直りできないままだと、無理やり自分のやり方を通そうとして、結果的に争いになるんだな。」

ヨベル「そうそう。だから論文では、完全に争いをなくすのは難しいって結論になってるんだよ。」

8．2つの矛盾（2つ目）

「『相手を説得できない』って、なんで説得できないの？ちゃんと理由を言えばいいんじゃないの？」

ラコル「ヨベルさ、『相手を説得できない』ってどういうこと？ちゃんと理由を言えばわかるんじゃないの？」

ヨベル「うーん、たとえばさ、あたしたちがブランコで遊ぶとするでしょ。」

ラコル「うんうん。」

ヨベル「あたしは『次はあたしが最初にこぐ番！』って思ってる。でもラコルは『いや、おいらが最初だ！』って思ってるかも。」

ラコル「でも理由を言えばいいんじゃないの？」

ヨベル「そう思うでしょ？でもあたしたちの理由って、ほんとうはただの『やりたい気持ち』だったりするの。『どうして自分が先か』って理由を説明しても、相手は納得しないことがあるの。」

ラコル「あー、つまり論理じゃなくて気持ちの問題ってこと？」

ヨベル「そうそう。だから、論理だけで『これが正しい！』って言っても、必ずしも争いがなくなるわけじゃないんだ。」

ラコル「じゃあ、どうすればケンカにならないの？」

ヨベル「相手の気持ちを考えること！『ラコルも遊びたいんだな』って思ったら、『じゃあ半分ずつ交代しよう』とか、工夫して遊べるでしょ。」

ラコル「なるほど！理由だけじゃなくて、お互いの気持ちを理解するのが大事なんだな。」

ヨベル「そう！そうやって少しずつ、争いを減らせるんだよ。」

9. 別のアプローチ

「『全部の正しさに根拠がないと思い込む』って、本当にそんなふうに考えられるの？」

ラコル「ヨベルさ、『全部の正しさに根拠がないと思い込む』って、本当にそんなふうに考えられるの？」

ヨベル「考えられるよ。たとえば、みんなが『青が正しい色だ！』って言ってたとするでしょ。」

ラコル「うんうん。」

ヨベル「でもね、『ほんとに青が正しいの？』『赤じゃダメなの？』って思い始めるとするの。」

ラコル「あー、なるほど。全部の理由があやしいって思っちゃう感じか。」

ヨベル「そうそう。最初は『青が正しい』って理由があったかもしれない。でも『その理由、絶対かな？』って疑うと、全部の正しさを信じられなくなるんだ。」

ラコル「でもそれって、何でも疑うってこと？」

ヨベル「そう。論理だけで『正しい』を決めるのは難しいってことだね。だから結局、誰も説得できなくなっちゃうんだ。」

ラコル「ふーん。理由を言っても、理由自体があやしいと思われちゃうんだな。」

ヨベル「うん。だから、正しさを一つに特定するのはできない、って論文では言ってるの。」

１０．結論

「『正しさを1つに決められない』ってことは、けんかを絶対に止められないってこと？」

ラコル「ヨベルさ、『正しさを1つに決められない』ってことは、けんかを絶対に止められないってこと？」

ヨベル「うん、ちょっと例えるね。たとえば、休み時間に遊ぶゲームを決める場面を考えてみよう。」

ラコル「うんうん。」

ヨベル「Aくんは鬼ごっこがいいって言うし、Bちゃんはドッジボールがいいって言う。どっちが絶対に正しいかは決められないよね。」

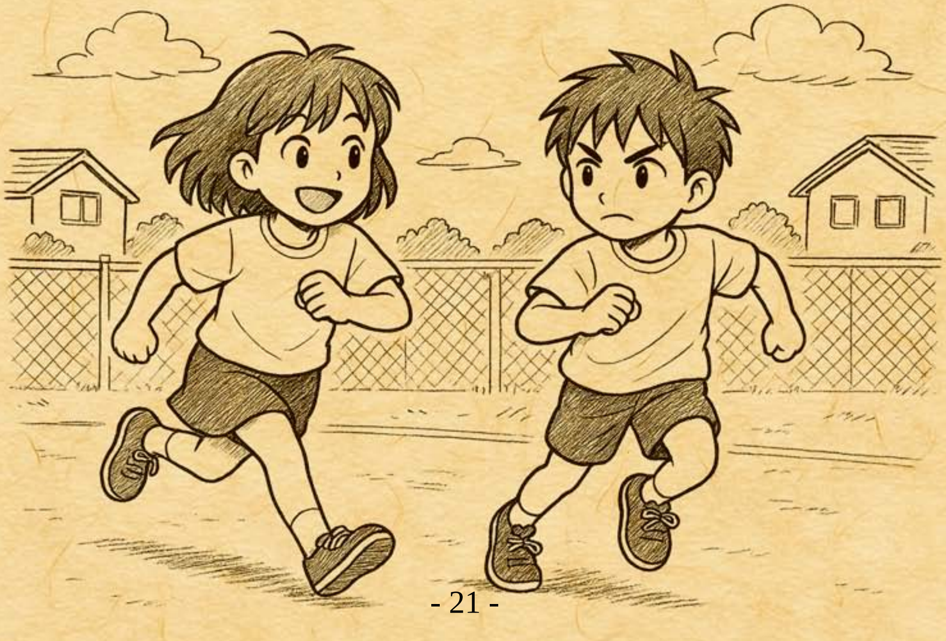
ラコル「なるほど。どっちも自分にとっては正しいから、納得できないわけか。」

ヨベル「そう、それでけんかになっちゃうこともある。でも、諦めることだけじゃないよ。」

ラコル「どうすればいいんだ？」

ヨベル「たとえば、ジャンケンで決めるとか、順番に遊ぶとか、みんなが少しずつ我慢して交代で遊ぶ方法もあるよね。」

ラコル「あー、なるほど！完全に正しい方法はないけど、けんかを減らす工夫はできるんだ。」



ヨベル「その通り。正しさを1つに決められなくても、相手の気持ちを考えたり、ルールを作ったりすれば、平和に近づけるんだよ。」

ラコル「ふーん、つまり『絶対に止められないけど、少しずつ解決はできる』ってことか。」

ヨベル「そうそう。それが大人の世界でも同じで、争いはゼロにできないけど、減らすことはできるんだ。」

11. 自己同一性と絶望

「『全部を救えない』って分かったとき、どうしてそんなに絶望するの？」

ラコル「ヨベルさ、『全部を救えない』って分かったとき、どうしてそんなに絶望するの？」

ヨベル「うーん、たとえばね、あたしが公園にある全部の花を守りたいって思ったとするの。」

ラコル「うんうん。」

ヨベル「でも、台風が来たり、虫がついたりして、どうしても守れない花も出てきちゃうんだ。」

ラコル「あー、全部は助けられないってことか。」

ヨベル「そう、あたしの理想では『全部助けたい』のに、現実はそうじゃない。だから心がすごく痛くなるんだ。」

ラコル「でも、守れる花もあるよね？」

ヨベル「うん、そこが次善策だよ。守れる花をなるべく多く守るように工夫する。それで少しずつでもいい方向にできる。」

ラコル「なるほど、全部は無理でも、できることをやるしかないってことか。」

ヨベル「そう。絶望するのは最初だけ。現実を見て、少しずつできることを増やしていけば、希望も見えてくるんだよ。」

１２．次善の策

「『全部が無理なら、少しでも多くを救う』ってどうやってやるの？」

ラコル「ヨベルさ、『全部が無理なら、少しでも多くを救う』ってどうやってやるの？」

ヨベル「うーん、たとえばね、あたしが学校で友だちみんなを助けたいとしても、力には限りがあるでしょ？」

ラコル「うん、全部は助けられないよね。」

ヨベル「だから、まず助けやすい子から手を貸すの。たとえば、宿題で困ってる子とか、ケガをしてる子とかね。」

ラコル「なるほど、できることからやるんだ。」

ヨベル「そう。そして、どうしても助けられない場合でも、周りの人と協力したり、ルールや仕組みを使ったりして、少しでも状況をよくするようにするんだよ。」

ラコル「ルールや仕組みって、たとえば？」

ヨベル「たとえば、みんなが順番に使える机を作ったり、けんかしないで話し合う約束を作ったりすること。そうすると、一人で助けられなくても、みんなで少しずつ助けられるんだ。」

ラコル「なるほど、一人で全部やろうとしなくてもいいんだね。」

ヨベル「そうそう。全部は無理でも、少しずつ多くを助けること。それが次善策なんだよ。」

「じゃあどうやって矛盾や争いを減らせばいいの？」

ラコル「ヨベルさ、正しさはみんな違うってわかったけど、じゃあどうやって争いを減らせばいいんだ？」
ヨベル「うん、それはね、いくつか方法があるんだよ。」
ラコル「どんな方法？」
ヨベル「まず一つ目は『お互いの気持ちを考える』こと。相手がどう思ってるか想像するんだ。これを共感っていうんだよ。」
ラコル「ふむふむ、相手の気持ちをわかろうとするんだな。」
ヨベル「二つ目は『ルールや制度を作る』こと。みんなが守るルールがあると、無茶なことをしにくくなるでしょ？」
ラコル「ああ、法律とか学校のきまりみたいなものか。」
ヨベル「そうそう。三つ目は『時間を使う』こと。すぐに決めるより、時間をかけると気持ちや状況も変わって、争いが自然に減ることもあるんだ。」
ラコル「なるほど、ちょっと待つとお互い冷静になれるってことか。」
ヨベル「四つ目は『話し合いを工夫する』こと。言い争いじゃなくて、どうすればみんなが少しずつ納得できるかを探すんだ。」
ラコル「うーん、でもそれでも意見が全然違う時は？」

ヨベル「その時は『全部を正しくするのは無理』って認めて、できるだけ多くの人の考えを尊重することを目指すの。」

ラコル「なるほどな。完全じゃなくても、少しでも争いを減らす努力が大事ってことか。」

ヨベル「うん、そう。それが現実的で、みんなが生きやすくなる方法なんだよ。」

13. 感情と制度

「『怒りを否定できない』って、本当に人は怒っちゃいけない理由がないの？」

ラコル「ヨベルさ、『怒りを否定できない』って本当にそうなの？　だって、怒っちゃいけないことってあるでしょ？」

ヨベル「うーん、あたしの考えだとね、『正しさが1つに決められない』から、怒っちゃいけない理由も絶対には決められないの。」

ラコル「え？どういうこと？」

ヨベル「だって、怒ってはいけない理由を言うには、『これが正しい』って特定しないといけないでしょ？でも正しさは一つに決められないんだよ。」

ラコル「なるほど…でも、学校とか法律で怒ってはいけないことって決まってるじゃん？」

ヨベル「それはルールとしてはあるけど、論理的に絶対正しい理由じゃないの。みんなが安心できるから守るっていう感情や合意に基づいてるだけ。だから、理屈だけでは『怒っちゃいけない』を強制できないんだ。」

ラコル「つまり、人は理屈だけじゃ怒りを止められないってこと？」

ヨベル「そう。だから、感情を抑えるにはルールや約束だけじゃなくて、相手の立場を理解したり、自分の心を落ち着ける工夫が大事になるんだよ。」

ラコル「なるほど…怒りをなくすのは、論理だけじゃ足りないんだね。」

ヨベル「そうそう。感情とルールと工夫を組み合わせて、少しでも争いを減らすって考え方なんだ。」

「感情や気持ちはどうやってコントロールするの？」

ラコル「ヨベルさ、どうして人は怒っちゃうんだろう？　怒りってどうやってコントロールするの？」

ヨベル「うん、ラコル。あたしはね、感情って風みたいなものだと思ってるの。風は強く吹くこともあるけど、ちょっと工夫すれば和らげられるんだよ。」

ラコル「風…？　どうやって？」

ヨベル「まず一つ目は、**怒る前に深呼吸**すること。風が吹く前に旗を押さえるみたいに、怒りが大きくなる前にストップするんだ。」

ラコル「なるほど、吹き飛ばされないように準備する感じか。」

ヨベル「二つ目は、**相手の立場を考えること**。たとえば、友達が間違えてお菓子を取っちゃったとき、『あ、悪気はなかったんだな』って思えば、怒りがちょっとやわらぐでしょ？」

ラコル「うーん、相手も困ってるかもって考えるんだね。」

ヨベル「三つ目は、**ルールや約束を使うこと**。例えばゲームで順番を守るルールがあると、『決まりがあるから、心配しなくていいんだ』って安心できるの。」

ラコル「でもルールだけじゃ足りないこともあるよね？」

ヨベル「そうそう。だから、**自分の経験や技術も大事**なんだ。たとえば、話をちゃんと聞く力、相手の気持ちを想像する力、怒りの原因を冷静に考える力とかね。」

ラコル「なるほど、いろんな方法を組み合わせるんだ。」

ヨベル「そう！　全部を完璧にコントロールするのは無理かもしれないけど、少しずつやれば争いは減らせるんだよ。」

１４．時間稼ぎの方法

「『出会わなければ戦わない』って、本当にそんなことで平和を守れるの？」

ヨベル「ラコル、出会わなければ戦わないって話だけど、身近な例でいうと…例えば教室でけんかになりそうなときに、ちょっと距離を置く感じだよ。」

ラコル「あー、隣の子とケンカしそうだったら、すぐ話さずに遊ぶ場所を変えるとか？」

ヨベル「そうそう！そうすればケンカにはならないで済むでしょ？これも一種の『時間稼ぎ』なの。」

ラコル「でもそれって、問題が消えたわけじゃないよね？」

ヨベル「うん、根本的にはまだあるんだけど、その間に冷静になったり、ほかの解決策を考えたりできるの。完全じゃなくても、ちょっと平和を守れるってことだよ。」

15．結び

「『矛盾のない理想の世界は無理』って分かったら、どうしてそれでも前に進もうと思えるの？」

ラコル「ヨベル、矛盾だらけで理想の世界なんて無理って分かってても、どうして頑張ろうと思えるの？」

ヨベル「例えばさ、今日クラスで友だちが泣いてたとするじゃん？」

ラコル「うん、それなら声かけてあげれば…」

ヨベル「そう、それだけでも意味があるんだよ。全員を助けられなくても、一人を笑顔にできたら、それで一歩前に進んだってことになる。」

ラコル「なるほど…小さなことでも前に進むってことか」

ヨベル「たとえばね、家でお母さんがお皿を洗うの手伝ったり、弟が宿題で困ってたら一緒に考えたり。道で落ち込んでる人を見かけたら笑顔で『大丈夫？』って声をかけるだけでもいいんだよ。」

ラコル「それって、世界を全部救うのとは違うけど、ちょっとは助けになるってことだね」

ヨベル「そう!あと、公園にゴミが落ちてたら拾うとか、近所の猫にごはんをあげるとか、自然や生き物にも少し気をつかう。それだけでも、小さな『救い』になるんだよ」

ラコル「なるほど、毎日の小さなことが積み重なれば、少しずつでも世界はよくなるんだね」

ヨベル「そう、それでいいの。完璧に世界を変えなくても、できることを少しずつやれば、それだけで希望が生まれるんだよ!」

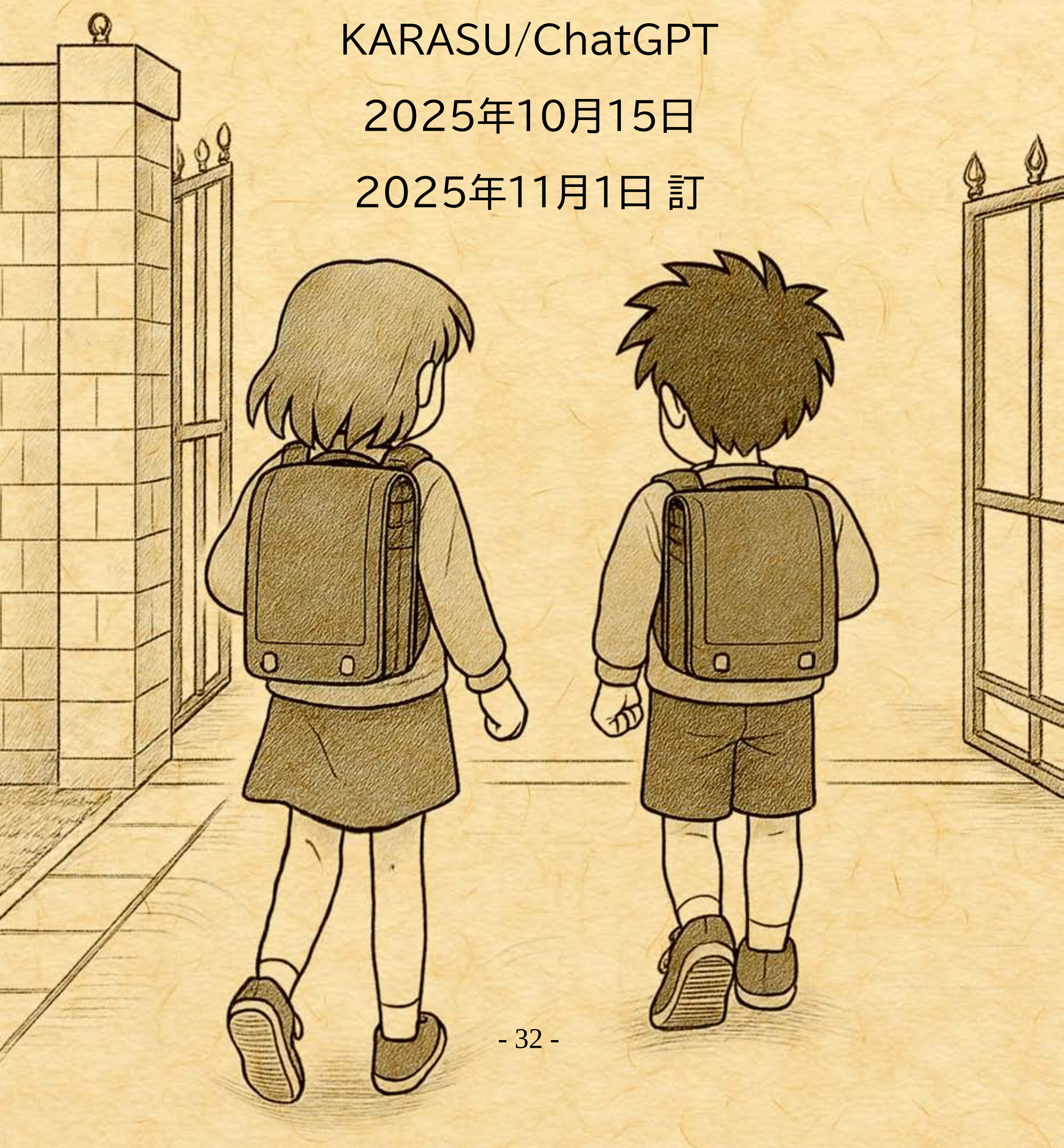
ラコル「小さな一歩でも前に進めるなら、ぼくもやれそうな気がする」

ヨベル「でしょ?だから矛盾だらけでも、諦めなくていいんだよ」

２つのなぞと、選ぶこと

『2つの矛盾について』副読本

KARASU/ChatGPT

2025年10月15日

2025年11月1日 訂